



#### 4 救助活動状況

警察とともに要救助者を捜索(写真3,4)すると、数分後にテトラポット下の海面に浮いている状態で発見。テトラポット下の海面はうねりがあり、見失わないように救助隊と警察(潜水士)1名が協力し、要救助者を簡易縛帯、ロープで一時確保した(写真5)。

海上では海上保安部と海上保安部からの要請で出動した水難救済会所属の漁船及び小舟が捜索活動をしている(写真6)。海面から防波堤天端まで高さが約7mもあり、船での搬送を要請した。

救助隊と警察潜水士によって要救助者をバスケットストレッチャーへ収容。カギ付きはしごを活用してテトラポット間を渡し、滑らせながら外海へ移送した(写真7,8)。

現場付近は海中にもテトラポットが敷き詰められており、ポートでなければ接近できなかった。海上保安官が乗り込む小舟へ潜水士が泳いでロープを渡し、ポートをテトラポットへ近づけ(写真9)、担架を小舟へ収容して救助が完了した(写真10)。その後小舟は港へ移動し、要救助者を救急隊へ引き継いだ(写真11)。



テトラポットの下を捜索中。



要救助者を一時確保。



水難救済会所属の漁船及び小舟が捜索活動をしている。



カギ付きはしごをテトラポットの間に敷くことでレール代わりにする。



バスケットストレッチャーを滑らせながら外海へ移送した。



#### 5 おわりに

本事例では車両が部署できる位置と現場が離れており、しかも現場は活動が困難な場所であった。さらに当消防組合には水難救助隊がないため装備資機材や人員に限界があった。そのような条件下であっても、関係する組織との連絡を密にし協力することでスムーズな活動ができた。他機関との連携の意義を実感した活動であった。



写真10

写真9 / 海上保安官が乗り込む小舟が、要救助者を収容した担架に接近。  
写真10 / 要救助者を収容した。  
写真11 / 小舟は港へ移動し救急隊へ引き継がれた



写真11

執筆者紹介  
留萌消防組合 留萌消防署  
予防課 予防係長  
上原拓也  
年齢:XX歳  
消防士拜命:平成9年4月  
趣味:釣り、サッカー



# 実録! 救助事例

連載

シリーズ第4回目は水難救助事例である。私が勤務する留萌消防組合留萌消防署には水難救助隊がないため、消防・警察・海上保安部・関係機関が連携協力し救助に当たらなければならない。

## 第④回 関係機関の連携が功を奏した水難救助事例

現場となった防波堤。



写真1

### 1 発生日時・発生場所

留萌市は日本海に面した北海道の港町。平成xx年5月上旬。この時期は休日ともなれば港はたくさんのカレイ釣りで賑わう(写真1)。

### 2 通報内容

「防波堤で釣り人の姿が見えず、テトラポットの下に帽子が浮いている」と近くで釣りをしていた人から110番通報が入り、警察から消防(留萌消防組合消防本部)へ出動要請。

当日は晴れ、北西の風3m、気温6.0℃、波の高さは1mで強風・低温注意報が発表されていた。

### 3 現場活動時の状況

留萌消防署の救助隊と救急隊が出動した。港には警察が先に到着しており、警察から「転落現場は防波堤を約100m先へ進んだ所」との情報を得た。資機材を携行して現場へ向かう(写真2)。

転落現場で通報者と接触。「(要救助者は通報者の)隣で釣りをしていた。(要救助者は)『仕掛けがテトラポットに絡んだ』と言ってテトラポットの下に降りていった。何度も声をかけたが30分経っても姿が見えずテトラポットの下に帽子が浮いており通報した」という内容を通報者から聴取した。

写真2 車両が部署できる位置と災害発生現場が離れているため、現場まで歩いて向かう。



写真2